

様式第2号（第9条関係）

会 議 録

会議の名称		令和4年度第3回ふじみ野市行政評価外部評価委員会			
開催日時		令和4年10月24日（月） 開会時刻 午前 9時30分 閉会時刻 午前11時55分			
開催場所		ふじみ野市役所 本庁舎3階 A301会議室			
出席した者の氏名		役職名	氏名	役職名	氏名
		委員長	木村 浩則	危機管理防災課長	武井 克裕
		副委員長	原田 晴男	都市計画課長	谷古宇 洋介
		委員	大平 聡男	都市計画課主幹	内田 忠佳
		〃	岡本 雄司	建築課長	鎌田 義浩
		〃	川村 和也	公園緑地課長	北澤 豊
		〃	瀧口 詠子	道路課長	宮崎 光隆
		〃	滝嶋 康弘	道路課主幹	大川 一彦
		〃	濱田 明彦	上下水道課長	高橋 昌巳
		〃	都市政策部長 山風呂 敏	上下水道課主幹	大塚 昌利
会議の議題		(1) 【施策25】道路-安全に機能する道路交通体系の充実を図ります-（都市政策部） (2) 【施策29】都市計画-快適で便利なまちづくりを進めます-（都市政策部） (3) 【施策33】下水道-浸水被害を防止し、環境整備のための生活排水処理を進めます-（都市政策部）			
会議の公開又は非公開の別		公開			
会議の非公開の理由		-			
傍聴人の数		0人			
発言の内容		別紙のとおり			
会議資料	○次第 ○外部評価シート ○委員質問に対する回答票 ○令和4年度会議スケジュール				
事務局		総合政策部 経営戦略室			
議事の確定	確定年月日	令和4年 月 日			
	記名押印	役職名 委員長 <span style="float: right;">㊟</span>			

## 別紙

### 会議内容

#### 1 開会

#### 2 【施策25】道路-安全に機能する道路交通体系の充実を図ります-（都市政策部）

##### <主な質問等>

○苗間神明神社の前の信号がある場所に道路がつながるようだが、どのようになるのか。

⇒今現在県道と市道がぶつかっている箇所を上沢勝瀬通り線として整備する。ご質問の箇所は、整備に伴って今まであった信号機がなくなるため市民の方から安全対策に関する要望をいただいている。

○狭あい道路対策延長については、対象用地33件中9件取得済とのことだが、幹線道路整備延長の件数はわかるか。

⇒幹線道路についても用地取得が必要だが、幹線道路については件数ではなく整備延長を指標としている。

○幹線道路整備延長と狭あい道路対策延長の令和2年度の目標値の数字が施策評価シートと事務事業評価シートで異なっているがこれはなぜか。

⇒それぞれのシートの性質の違いによるものである。施策評価シートについては、ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 の指標管理のため、当該計画の数値によっているが、事務事業評価シートの目標値については、誤って記載してしまっている。

○狭あい道路対策事業を実施する必要がある地域を教えてください。

⇒市道E-177号線と大井中学校からふじみ野高校までの歩道整備工事を進めているが、用地交渉が難航しているのが現状である。市道F-55号線についても交通安全対策として埼玉県と三芳町と連携しながら事業を進めている。4メートルの生活道路が多く、車のすれ違いができない等の要望があるため、その際は地権者の方と交渉の上で対応を検討するようにしている。

○ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 が始まってから幹線道路や狭あい道路対策のペースは上がったか。

⇒幹線道路については、大きな事業が完了することもあり、また、歩道整備にも着手できていることから、実績値については進捗している。

○幹線道路整備延長、狭あい道路対策延長ともに2年ごとに実績値があがっていくが、これはそのような性質のものか。

⇒そういうわけではない。整備の進捗により数値として示せる実績値がこのような形となっただけである。

○都市計画マスタープランは公表内容が充実しているが、ホームページを見た限りでは都市交通マスタープランについては1ページだけしかない。これでは内容がよくわからない。説明も不足していると感じる。

⇒次回策定時には市民の方が見てもわかるようにしていく。

- 都市交通マスタープランは道路課ではなく都市計画課所管なのか。
- ⇒計画などを作るのは都市計画課で、それを実行するのが道路課という形になっている。
- 三芳町のスマートインターがフル化することだが、大丈夫だろうか。今のままフル化して観光バスなどが入ってきたら大渋滞が起こってしまうのではないか。もっと市民に情報を公開して議論していくべきではないか。
- ⇒三芳町のスマートインターのフル化については、三芳町主体で協議会を設置して進めているところで、令和5年度以降の開設見込である。供用開始に併せ、既に関係する機関（国、県、埼玉県警察、近隣市町）で、交通安全対策協議会を設置して、計画を作成した上で安全対策に係る事業を進めている。細い道に大型の車が入ってくる懸念はあると思うが、誘導看板を設置して生活道路に入らないようにするなどの対策を検討している。

### 3 【施策29】都市計画-快適で便利なまちづくりを進めます-（都市政策部）

#### <主な質問等>

- 「都市計画法に基づく建築の許可事務」、「都市計画審議会運営」が指標となっているが、これは取組を進めていく上で積み上げていくような性質の数値ではないのか。
- ⇒施策の性質もあって、指標の設定が難しく、今挙げられたものを指標として設定しているが、次期計画策定時にはより適切な指標がないか検討していく。
- 都市計画マスタープランの「将来の都市構造図式」について、イオンタウンなどの新たな商業拠点がプロットされていないのはなぜか。トナリエなどはプロットされているが。
- ⇒市で商業地域として整備していこうとしている地域についてはプロットしているものの、イオンタウンはまだ用途地域が工業地域となっていることもありプロットされていない。
- まちづくりの手法として「土地区画整理」に代わって「地区計画」の制度を活用して進めるとの記載だったが、これはどのようなものか。
- ⇒土地区画整理事業施行区域として設定すると、土地の活用に制限がかかる。そのような区域に対して、地区計画制度を利用すると、いったん土地区画整理事業施行区域の設定を外すことができ、新しい形での制限等を行うことができるため、土地の利活用が図れるようになる。
- 道路交通法の改正により自転車は原則車道通行になっている。しかし、多くの大人の方が歩道を自転車で走っている。市と警察で対策を進めてほしい。
- ⇒自転車が走行してよい歩道もあるため標識で示されているが、わかりにくいのが現状である。警察と協議して標識を見やすくしたり、自転車の乗り方の指導などの対策を行っていく。
- 街路樹についてだが、今街路樹の管理が問題になっている。植えた当時は良かったかもしれないが、現在はそぐわないものがあると思う。市民の声としても、邪魔に感じる方もいれば、景観が良いと感じる方もいて、考え方が分

かれています。

⇒そのような声は道路課でも聞いている。死角をつくる危険なものもあり、今後寿命を迎える樹木もあるため、剪定をするなり、別の樹木を植えるなり検討していく。

○上福岡駅東口駅前広場整備事業について、都市計画決定面積を確保とあるが、これは全件確保することを目指すものか。あと何件程度残っているのか。

⇒全件の確保を目指すものである。あと2件で全件となる。

○最近地球温暖化もあり地球全体の環境が悪化している。このような中、ふじみ野市として持続可能なまちづくりをすすめる、とあるのはとても良いことだと思う。

⇒市としても人口減少等様々な課題がある中で、産業団地の整備などの現状を踏まえて将来を見据えたまちづくりを進めていきたいと考えている。現在ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 の後期基本計画を策定しているが、策定にあたってはSDGsの考え方を取り入れながら行っていく。

○上福岡駅東口駅前広場を市の玄関口として整備するとすると、上福岡駅横にある踏切が大きなネックになると思う。これに対して市が検討してきた経緯はあるか。

⇒アンダーパスによる東西連絡道路を整備する計画があったが、公共事業評価委員会に諮ったところ事業中止を具申され、中止した経緯がある。市としても踏切は大きな問題であると考えているため、引き続き東武鉄道と埼玉県と協議して対策を検討していく。

#### 4 【施策33】下水道-浸水被害を防止し、環境整備のための生活排水処理を進めます-（都市政策部）

##### <主な質問等>

○浸水被害について、現地調査にて冠水が軽減していたとのことだが、どのような調査を行ったのか。

⇒現場に出向いて水のたまり具合などを目視で確認した。

○荒川のあたりに調整池を作るという話を聞いたが、これにはどのようなメリットがあるのか。

⇒新河岸川の水門を1門設置して、2門とした。それによって、新河岸川の水が荒川に流れるようになり、それに伴って調整池を整備するものとなっている。調整池の整備により間接的に本市の水害が軽減されるものと考えている。

○ゲリラ豪雨等の予測の実証実験を実施しているとのことだが、いつ頃市では本格運用を開始するのか。

⇒N T Tと実証実験を東芝製のレーダーを使って行っている。このレーダーは積乱雲の状況を以前よりかなり早い段階で把握することができる。これによって、雨雲レーダーなどの精緻化がされるものと国のほうでは言われている。この実証実験の結果をすぐに市で実用化するというのではなく、地方自治体をフィールドにしてこのような実験をすることで、国における技術力の向上

- 等が図られ、将来的に市の災害対策にも資するものであると考えられる。
- ストックマネジメント計画を策定して老朽化した下水道施設の維持管理を図っていくとあるが、これはどのように運用しているものか。
  - ⇒平成30年度に策定した下水道事業経営戦略というものがある。部材費の高騰などがあるため、年を追うごとに見直しが必要なものになるので、令和4・5年度において改訂作業を行っている最中である。
  - ストックマネジメント調査を随時実施しているとのことであったが、最近の調査の概況を伺いたい。
  - ⇒県道・国道の下に埋まっている管路の耐震化状況を確認したところ、1か所危険な箇所があったため、工事を行った。
  - 下水道使用料収入と事業収支を比較すると費用が使用料収入より多く見える。これは使用料収入だけでは、下水道事業を賄えないということか。
  - ⇒経費回収率は少し低くなっている。下水道事業については、雨水・汚水という区分があり、雨水については公費、汚水については私費で賄うこととなっている。そのため、費用の全てを使用料収入（私費）だけで賄うわけではないため、そのようになっている。
  - 雨水調整池について、現在整備中のものは場所としてどこになるのか。
  - ⇒国道254号バイパスの沿道にあるもので、ふじみ野市運動公園の北側にあたる。
  - 家庭や事業所の雑用水に、雨水や再生水を活用するための施策はあるか。
  - ⇒現在はそのような施策はない。市内の事業所では、トイレの水に雨水を使っているところもある。
  - 下水道事業の経営基盤強化、という話があったが、収入支出の極端な変動がないように計画を策定する等、何か基盤強化のための取組があれば教えてほしい。
  - ⇒下水道事業経営戦略を策定し、実施している。令和4年度から市街化調整区域における公共下水道の整備を行っていくが、これについては極端な収支にならないよう費用を年度で平準化させながら進めていく。なお、整備の際には企業債なども活用して行っていく。
  - 自治体によっては、下水道の使用料を上げて事業の費用を賄っているところもあるが、ふじみ野市では行わないのか。
  - ⇒現時点では行う予定はなく、経営努力で下水道事業を継続させていく予定である。

## 5 その他

## 6 閉会